

特集・都市の魅力—第三の生活空間④

いい街ってどんな街？

・学生座談会／街を眺めながら

坪井 勇蔵

○月○日の昼下がり、野毛山公園内で学生四人（A、B、Dが男子学生、Cが女子学生）が横浜市の地図やガイドブック、写真集を持参して横浜の街をテーマに「街がどうあってほしいか」を自由に話し合いました。

一——いい街ってどんな街？

A 「まず始めに、いい街ってなんだろうと思う？」

C 「そうねえ、いい街っていう概念が基本的に難しいけど、まず、一番に思いつくのは、生活しやすい街ということかな。例えば商店街があるとか、交通網がしっかりしているとか、やすらげる縁があるとか。」

D 「学生にとっては、学校までの交通の便や住環境も特に大切になってくるよね、僕は独り暮らしをしているんだけど、自分の部屋を探すのに苦労したよ。首都圏だからしょうがないと思うけど、狭いし高いしといった物件が多くて困ったよ。」

B 「でも、そういったことを除いては、まあまあ学生の生活しやすいところではあると思うよ。コンビニエンスストアは至る所にあるし、東横線も相鉄線も京浜急行も使いやすいしね。ただ、学校まで最寄りの駅からすごく遠いとか、坂があるとかの問題はあるけど。まあ京都や八王子のように学生を中心に考えて街造りはしていない。」

- 一——いい街ってどんな街？
- 二——仕事しやすい街ってどんな街？
- 三——遊びやすい街ってどんな街？
- 四——いい家庭が築ける街ってどんな街？
- 五——心遣いがある街ってどんな街？

D 「特に京都は関西パワーというか学生の間で何かを起こしてやろうという意識があるように見えるね。それに、街ぐるみでそれを手助けしているよ。」

B 「そうだね。それだけじゃなくて、京都や八王子は大学が集まっていて学生がいっぱいるから、学生だけをターゲットにしても、十分なマーケットができていて、それだけでも商売ができるから学生中心の街になっているんじゃない？」

A 「それもあるかも知れないけれど、街の人たちが学生にいろいろ期待をしている街なんじゃないかな。学生に期待をしていけば、街はその学生をその街に残したがる。学生を残すた

めには、街の人たちと同時に、学生も一緒に、学生たちがこれからも住みたいと思うような街を造っていく、そして学生たちがその街に残り、またより良い街を造っていく。」

一同「なるほど。」（感嘆）

A「街造りのひとつとして、街に企業の本社を誘致したら学生も残るだろうしね。横浜は企業の本社があまり無いから、東京のベトナムンとしてしか機能していなくて、優秀な学生がほとんど東京に流れていっている事実もある。優秀な学生だけじゃなく、遊んでばかりいる学生も流れているけどね。」（笑）

D「若い世代の人間が街に残ることで街が活性化しているのは確かだよな。農村や漁村の過疎化が問題になっているけど、横浜でも学生が残らないという広い意味で過疎化に走っていく危険性もあるんじゃないかな。実際にはそんなことは無いと思うけど。」

B「でも、街に魅力がなくなったら若者はいなくなるよ。生活しやすい街造りを考えてほしいし、僕たちもそれに答えるように頑張らなくちゃいけないだろうし、長期構想になるけど、学生の住みやすい街造りをした方が今後横浜には有効な手段かも知れないね。」

C「ああ、なんて学生中心の意見なんでしょ。（笑）」

A「それでは、いい街とは学生がこれからも住みたいと思えるような街ということになるけど、学生にとって住みたい街とはなんだろう？本題にもどりました。」

C「当然、学生は今のことだけ考えているのは無くて、将来のことも考えているのだろうけど、例えば将来この街に住み続けるとか子供が生まれてその子供をこの街で育てるとか考えると、やっぱり一番最初に挙げた交通網とか緑とか住環境なんかが最も重要なんじゃないかな。」

D「いわゆる衣食住ね。」

B「ただ、社会人になると、それに仕事と遊びと家庭が絡んでくると思うんだ。学生の時は遊びがほとんどだけど。家庭は住環境も当然のことながら、例えば教育とか福祉といった家庭内の問題も大切だよな。」

A「それでは仕事しやすい街、遊びやすい街、よい家庭が築きやすい街という観点から見ていくと面白いかも。まずは、仕事しやすい街ってどんな街だろう？」

二——仕事しやすい街ってどんな街？

D「職場が家の近くにあるか、または家から職場への交通がしっかりしているところじゃないかな。」

いかな。

長い通勤のストレスというのは結構あるみたいだよ、特にラッシュだと、そういった意味では家と会社を近くにして通勤時間を短くするか、ラッシュの無い交通網を設定すれば仕事にも身が入るんじゃないかな。」

A「これは企業内の問題になるけど、フレックスタイム制を取り入れると、ラッシュの解消になるし、自分の時間が有効に使える。気分的に全然楽になって、より働きやすくなると思うよ。」

C「私は憩いの場というか、憩いの空間のある会社で働きたいな。仕事で疲れたときに噴水や草や木があるといいと思わない？ビルの密集地で外につくれないのなら、ビルの中のワンフロアを使って憩いの空間をつくって、噴水や植木鉢を置くだけでもいいと思う。」

一同「同感、同感」（頷く）。

B「働きやすい街ということだけど、マーケットがしっかり確立されていないと働こうにも働けないよね。結局東京の方がたくさん人もいるし企業もあるしで、横浜に本社があっても東京に営業に行くようでは働きやすいかどうかは疑問。そう考えて見ると、働きやすいという意味では東京に勝る街はないのかな。」

A「モノゴトには『功罪』があって、東京にある

「功」の部分、つまり、たくさん人もいるし企業もたくさんあることだけど、そのことだけを見ていても仕方ないよ。東京にも、「罪」の部分があって、一概に東京がいいなんて言えない。横浜に今ある「罪」の部分も横浜が「功」に変えていけばいいと思う。それによってどんな「罪」が生まれるかはわからないけれどもやってみる価値はあるよね。」

B 「なんか哲学みたいだな。」

三——遊びやすい街ってどんな街？

A 「難しくなったところでとりあえず置いておいて、遊びやすい街とはどんな街だろう？」

D 「学生と社会人では遊びに対する考え方が違うと思うけど、というのは、学生は遊びに没頭できる身分だし、社会人は次の日のことを考えると遊びといっても我を忘れるほどの遊びではなくストレスを発散する程度の遊びしかならないだろうと思う。で、今はとりあえず学生だから学生なりの遊び論を展開しようよ。」

B 「遊びという点では学生の感性の方が敏感だからなあ。」

C 「そうとも言えないけど。遊んでる大人の人をたくさん知ってるわ。」

A 「最近はどこで遊んでる？」

B 「そうねえ、ドライブいたりカラオケいたり飲みにいったりぐらいいかなあ。」

A 「もうちょっと理知のある遊びをしないの？」

B 「むっ。」

A 「映画とか美術館とか行かないの？このあいだね、MOMAを見に行ったよ。やっぱり凄いや、あれは。二年前ぐらいの横浜美術館のバルセロナ展も良かったけど、パワーが違う。横浜にもMOMA並の美術館が来ればいいんだけどね。東京まで行かなくちゃいけないというのが基本的に衛星都市の現実だよな。」

C 「演劇とかもそうなんだけれども、有名なものは東京に集中して横浜には絶対来ない。これは、外人アーティストのコンサートも同じ、絶対に来ない。文化も遊びに含むのであれば、横浜は遊びに弱いと思うわ。」

D 「歌舞伎もないし、テーマパークもない。観光地って、観光客が喜ばばいいみたいな部分があるのかな？」

C 「映画も横浜はちょっと弱いよね。有名な映画やマイナーなだけいい映画を、あまりやってないし、テーマをもって映画を流している映画館も少ないし。」

B 「夜遅くまでやってる映画館もないし。」

C 「だいたい横浜のプレイスポットは夜遅くま

でやってないよね。」

D 「今言った映画館をはじめ、飲食店、喫茶店、カラオケボックス、居酒屋、ゲームセンター、バー、他にもいろいろあるんだろうけど、とにかく閉まるのが早い。僕自身の個人的な夜遊びコースの希望としては、まず居酒屋でっひゃーと飲んで、ちょっと疲れて、次は雰囲気の良いバーで飲む。だいぶんいい気分になったところでフランス映画をのんびり見る。映画が終わるのが、だいたい朝の四時三十五分ぐらい（笑）で、そこから喫茶店に入って、始発の電車で家に帰る。これが、かっこいい夜遊びの仕方だと思うのは僕だけでしょか（笑）？。このコースをこれから満たしてくれそうな街の候補としては、やっぱり横浜駅西口かイセザキ町が有望だな。」

A 「中華街なんかも、前は夜の八時ぐらいで閉まってしまふ店が多かったけど、このあいだぶらぶらしてたら朝の四時まで営業している店とか結構でてきたみたい。」

B 「あ、そう。それはいい傾向だ。」

A 「みんなは横浜の持つ文化も含めての遊びに対して、全体的にどんな意見をもっている？」

C 「とにかく弱いよね。時間的にも空間的にも。」

B 「東京が近くにあるからそれに甘んじているんじゃないかな。もっと横浜らしい横浜独自

「遊び」についての学生の証言

証言1 「みんな、同じ場所に集まるんだよね。渋谷や自由ヶ丘や吉祥寺なんかが学生の街だとかよく聞かして。サークルで遊びに行く時だっ

ない時を狙って、すいている時にゆっくり遊べるのが特権。平日とか休日とか関係なく遊びたい時に遊んでるって感じかな。」

を楽しんでる。女の子だけで繁華街は出歩かないね。」

証言7 「基本的に大騒ぎをするのが好きだから、例えば飲みに行くならイッキ飲み可能な居酒屋をわざわざ選んだり、一体感を楽しむなら野球

てパターンがあって、まずは居酒屋、その後カラオケ、それで時間があればゲームセンターに駆け込む。学生が行くところはだいたい決まってる。横浜市内だったら横浜駅西口か、ちょっと頑張って行ってイセザキ町かな。サークルの仲間で飲む時は、安くて良いお店があるところより仲間が集まりやすいところを選んで遊んでるね。だからいつも同じ場所になっちゃう。いちいち遊び場所を選んだり新しい場所を探したりするのが、しんどいんだよね。」

証言2 「学生の活動時間は夕方から夜にかけてだと思われているみたいだけど、平日の午前中から遊んでいる学生も多いんじゃないかな。『昼間っから何やっているんだコイツら』っていうのをよく見かけるでしょ。授業の休みの日とか、授業をさぼったりとかで家族連れや社会人が遊べ

証言3 「僕の遊ぶ時間帯はだいたい夜中だね。朝は寝て、昼は学校に行くと、家に帰って来てから、どこ行こうって考える。仲間を誘って家で飲んだりマージャンしたり。疲れるから家から出るということはあまりしないね。家から繁華街までが遠いということもあって、所謂遊ぶのは自分の家か仲間の家だね。近くの商店街の安い居酒屋を使うのが限界かな。あまりお金がかからない遊び方をしているよ。繁華街に出るとお金もかかっちゃうし。学生って基本的に貧乏なんだよね。貧乏なかわりに時間

証言5 「僕は新しいものが好きだから、情報の発信源に学生が集まるというのはとてもよくわかるな。街で言うならば、ファッションの情報発信源という意味で、渋谷や代官山、上野なんかが代表的だろうし、場所なら例えばデイズニールランドが挙げられるし、八景島シーパラダイスもあそこにはこんな物が売っている、こんな場所があるってお互いに情報提供して、楽しめる場所を探している。新しいテーマパークができたと聞いたからこそ遊びに行くし、おいしいイタメシのお店があると聞けばみんな集まる。だから、行くところはみんな一緒になっちゃうんだよね。情報はたくさん巷に流れているから、遊ぶところには事欠かないよ。」

証言4 「女の子ばかりだと、友達の家で料理大会をやったりする。お好み焼を作ったりオムレツを作ったりして、フィズ系の軽いお酒を近く

の家で料理大会をやったりする。お好み焼を作ったりオムレツを作ったりして、フィズ系の軽いお酒を近くの酒屋で買ってきて部屋の中で宴会

証言6 「公園とか動物園とか海とか電子音の聞こえない静かなところでボーっとしていたいの、そんなところで一緒に遊んでくれる友達がいらないんだ。だから僕はみんなに合わせる、適当にみんなと一緒に遊んで

情報過多であるためか若者の集まる場所・時間帯が決まってくる。端から見ると、号令をかけられたかのように若者が集う。渋谷がいい例である。『トムソーヤの冒険』には、色々な遊びを創造するトムソーヤとハックルベリーがいる。彼らの創造力は今の若者に無いと思う。自分が何をしたいのか、がわかれば情報に流されることなく、遊びの天才「トムソーヤ」になれるだろう。

の酒屋で買ってきて部屋の中で宴会

を楽しんでる。女の子だけで繁華街は出歩かないね。」

証言7 「基本的に大騒ぎをするのが好きだから、例えば飲みに行くならイッキ飲み可能な居酒屋をわざわざ選んだり、一体感を楽しむなら野球

観戦やサッカー観戦、コンサートも行く。大きな声を出して大騒ぎして理性を吹っ飛ばすのが好き。彼女とデートの時も二人っきりになれる場所よりも、みんなが集まって大騒ぎしているところに行く。彼女もその方が楽しいって言ってるよ。」

のコンセプトでやってほしいね。例えば、一瞬のうちに東京都だけ宇宙人に侵略されても横浜市民は独自の統治区で混乱もなく遊び続けているみたいな。歌舞伎が見たいって思っても、宇宙人に侵略されていては見れない。こんなときに横浜に歌舞伎があれば、なんて思いたくない(笑)。」

C 「それは遊びの部分だけでしょ。」

B 「まあ、そういうことなんだけど。」

A 「その他の人は？」

D 「一応、FM局もテレビ局も新聞もあるし、プロ野球チームもある、プロサッカーチームもある。誘致の仕方はうまいとおもうね。これも文化に入れるなら、魅力のある街だよ。住民が一致団結できる要素がある。」

A 「この話で思い出したんだけど、今桜木町にある日本丸を日本のどの都市に保管して置くかという議論がでたときに、横浜と神戸の二候補があがったんだって。それで、横浜は日本丸を海に浮かべるといふ条件を出して、神戸は陸に保管するといふ条件を出したらしいのね。結局横浜が勝って、日本丸は横浜に置かれることになったみたい。」

一同 「ふーん。」

C 「横浜市もいろんなことやってるんだけどね。もっと頑張ってほしいよね。」

D 「コスモワールドだって、横浜博覧会跡地を上手に利用して西区にあれだけのものを残しているし、野毛山動物園にしたって相当の数の動物を飼育していて、十分に楽しめるし、入場料もタダだしね。そう考えると結構立派な街だよ。」

B 「今度横浜八景島シーパラダイスもできるしね。あれって本当に横浜市民のための公園って感じがする。横浜のイメージはやっぱり港か海でしょ。山下公園なんか観光客のための公園だし。」

A 「八景島パラダイスってテーマパークなの？全然知らないんだけど。」

D 「こんなふうに他にもいろいろ面白いところがあるんじゃないかな、僕らが知らないだけで。」

A 「情報にうるさい若い世代の僕らが知らないってのも問題があるけど。周知方法がいまいちちゃんと確立されていないような気がするよね。めいっばいアンテナを伸ばしていないと、横浜のいいところを見逃してしまいうる。」

C 「それってやっぱり情報が市民のあいだにきちんと浸透していないからだと思う。例えば、恋人の理想が空気のような人っていうじゃない？それと同じで、横浜の市民だったら横浜

のいいところ悪いところ全てを何気なくわかっているような状況が理想よね。」

A 「だんだん本質に迫ってきました。他には？」

D 「市民に対する教育講座があればいいと思う。横浜にはたくさん大学の大学があって、なおかつ、散在している。言い換えると、ちょっと移動すれば、すぐ大学があるということ。つまり、あらゆる市民が大学になんらかの形で接することができる環境がある。だから、市民と大学生の交流があってもいいと思うし、大学の教授なり何なりが市民のために教養を放出するのも、とても意義のあることだと思うんだ。同時に、市民もそれを求める姿勢を見せることも必要だけれども。」

A 「例えばどんな講義？」

D 「うーん。『市民で考える街おこし』とか、

『市民で考えるエイズ問題』とか。」

C 「それと『環境問題』とかね。」

A 「これまで、文化を遊びに含めて遊びやすい街という観点で見えてきたけれども、遊び論というよりも文化論になってしまった。まあ、よしとしてもらいましょう。さて、話がつきないと思うので、そろそろ次に移って、いい家庭を築きやすい街とは何かについて話し合いますよ。」

四——いい家庭が築ける街ってどんな街？

C「これは自分に子供ができて、横浜で育てていくと仮定するんだよね。」

A「その方が考えやすいだろうね。家庭円満というのが前提条件。夫婦仲が悪ければ家庭もないからね（笑）。」

B「子供が丈夫に育ってくればそれでいいと思うけど、そのためにはやっぱり公園と緑が必要かな。子供が思いきり身体を動かせる場所がほしい。」

D「奥さんが住みやすい街ってのも大事だと思うよ。それには、地域社会と自分の家庭関係がスムーズにいくことが一番有効かもね。今は、新興住宅も多いし、これから自分たちが家を持つなら、そういったところがマンションになるだろうと思うのね。昔からその地域に住んでいるなら、地域社会の人間関係もうまく機能するだろうと思う。でも、今は昔と違って核家族化しているから、個人同士の付き合い方もわからない人が増えてきている。実際、自分たちもこっちで生活しているけど、朝、隣の人にあっても挨拶ぐらいのこともなかなかできない。はじめはこっちの人がみんな冷たいのかなあって思ってたけど、違うんだよね。核家族化してるから地域社会が完成

されてないんだ。残念だけど、そんな空気が流れているのは事実だよ。それは、お互いがコミュニケーションする場所、例えば公園のような場所がないから、集う場所がなくて、コミュニケーションがそこに生まれにくい。僕の友達の子も言っているけど、結婚するのに友達が一人もいない土地に単身で乗り込むのはイヤだって言ってる。やっぱりそういった地域社会のことが不安なんだろうね。でも、子供を遊ばせておける公園があって、それを見守る奥さん同士が次第に心開いていって、仲良くなるならばその形が一番美しいと思うよ。地域社会の中の家庭を考えるのも大切だと思う。」

A「地域ぐるみでなんとか、というのをあまり聞かないね。」

B「基本的に自治会とか子供会とかあるけど、学生には全然関係ないと思われるところがあるよね。実際に機能しているのか全然知らない。」

A「だんだん論点がゴチャゴチャになってきたけど、こう話し合ってみると、いい家庭を築きやすい街というより、家庭にとっていい環境のある街という観点で話を進めていったほうがいいみたいだね。」

B「子供が安全に育つ環境も必要だよ。子供

が誘拐されたり用水路の中に落ちたりというようなことがないようにしたいね。地域ぐるみでそういったことに気を付けていけば、変なおじさんに連れられていく子供に一声かけてあげるとか、危険な場所の近くに子供に注意するとかできると思うよ。自分たちで何もしなければ、環境も良くならないし何の問題の解決にもならない。」

D「別の話になるけど交通事故なんかも防げる問題だよ。子供が安全に遊べる場所を確保しておかないから、道路で遊んで事故にあっちゃうんだよ。これって必然性のあることなんだよね。子供なんかどこでも遊び場所なんだから。」

A「そういえば、僕は横浜国立大学の学生なんだけど、横浜国立大学って相鉄線の和田町駅から学校までキツツイ坂をのぼっていかなくちゃならないのね。その坂というのは当然一般の人も利用しているわけよ。その坂の利用者は、とにかくお年寄りが多い。たぶん元気な人は車とかで買い物に行ったりするんだろう。とにかくキツイ坂を利用しているのはお年寄りばかり。坂の上に商店街とかがないから、一週間三、四回は坂をおりなくちゃならない。大きな買い物袋を下げてエッチラオッチラ坂をのぼっているお年寄りを見ると

かわいそうだったんだ。それがさあ、久しぶりに学校に行ったら（笑）、お年寄りがのぼりやすいようにその坂に沿ってのぼり棒みたいな手摺りが出来てたんだよ。びっくりしたけど、嬉しかったよね。手摺りがあればのぼるのも全然楽だと思うよ。街づくりのそういうた心遣いが嬉しいし、街としていい街だなあと思ったよ。

C 「心遣いのある街っていいよね。そこに住んでいる人たちがみんなのことを気遣う街…。」

D 「お年寄りや子供といった弱者に対しては、特に考えてほしいよね。」

A 「和田町の手摺りのような話が横浜の街に溢れればいいね。」

B 「本場にちよっとしたことなだけでさ、人の生活というものを大切に考えていたら思いつくことなだけだね。」

五——心遣いがある街ってどんな街？

A 「いい街とは何かについて仕事、遊び、家庭

環境の三本を軸に話し合ってきたけれど、いい街とは人の生活を大切に考えてくれる街ということまで全てが結びつくと思うんだけど、どうだろう？」

B 「人の生活というよりも、人それぞれの空間を大切に考えてくれる街かな。例えば、働く人の空間とは、働く空間は当然のことだけど、通勤中も働く人の空間だし、休憩中も働く人の空間。その空間全てを考えることのできる街。」

C 「いろんな立場の空間が入り乱れつつ、融合されている街が理想なのかな。いろんな人が幸せになるような。」

A 「言い忘れていたことがあるんだけど、外国人の問題も今の横浜にとって切実で大切な問題だと思うよ。これから日本は国際化していくかなくちやならないと思うけど、横浜は歴史を見ても現状を見ても東京に代わって国際化のニューリーダーであるべきだと思うのね。外国人の友達が話してくれたんだけど、横浜に限らず日本はまだ住みにくい街らしいよ。」

というのが、市役所で手続きをするにも英語の話せる人がいないとか。病気になるたとき、受け入れてくれる病院が少ないとかで、すごく不安だと言ってた。国際化するならもっと受け入れ体制を整えるべきだし、そこではじめて外国人にとっていい空間が生まれるんじゃないかな。」

C 「私たち学生ってほんとうに方法論も語らずにかつてな意見ばかり言ってるね。」

D 「実際、学生が方法論を唱えるのは専門家じゃないんだから所詮無理な話で、無理なら無理なりに問題提起をしてみるだけで意義のあることだと思うよ。」

A 「自分だけじゃなく皆が幸せになるような空間が街に溢れるように、これからの日本を担っていく自分たちが、話してきたような問題意識をもって生きていかなくちやいけないだろうね。」

〈VOICE YOKOHAMA 2010 実行委員会会長
横浜国立大学四年〉